

## 第1回町田市生涯学習審議会会議概要

日時 2022年6月23日(木) 9時30分～11時30分  
会場 市庁舎 会議室2-2  
出席者 委員：吉田会長、阿波野副会長、依田委員、吉川委員  
菅原委員、仲村委員、喜田委員、渡邊委員、増田委員、  
西澤委員  
事務局：生涯学習部長、生涯学習総務課長、生涯学習総務課担当課  
長、生涯学習総務課総務担当係長、生涯学習センター長、  
図書館長、文学館長、その他市職員2名  
傍聴者 1名

<次第>

1. 委員自己紹介
2. 会長選出
3. 町田市生涯学習審議会について  
生涯学習審議会の概要
4. 町田市教育プランについて
5. その他

### 【会議内容】

1. 委員自己紹介  
各委員の自己紹介が行われた。
2. 会長選出

事務局：町田市生涯学習審議会条例において、会長と副会長については、社会教育委員の中から選ぶと定められている。互選ということになるが、いかがか。

C委員：会長は吉田委員にお願いしたいかどうか。

M委員：吉田委員の推薦理由をお聞きしたい。

C委員：前期も会長として、意見を出しやすい雰囲気の会議を進行していただいた。それがとても印象に残っているため、今期もお願いしたい。

事務局：ただ今のご推薦により、第6期町田市生涯学習審議会会長は吉田委員にお願いしたい。副会長について、指名はあるか。

会 長：阿波野委員にお願いしたい。

事務局：では、副会長は阿波野委員にお願いしたい。

### 3. 町田市生涯学習審議会について

#### <吉田会長の挨拶>

今年は、答申を出すわけではないため、比較的和やかに進行していけるのではないかと。現行の町田市教育プランが2023年度までであるため、次期町田市教育プランを策定する必要がある。その策定に伴い、今期の会議では特に生涯学習政策に関する事項について、事務局から意見を求められ、審議するというかたちになるかと思う。生涯学習は、家庭教育と学校教育、社会教育とクロスオーバーする部分も多い。今後の町田市の教育の方向性も含めて考えていきたい。教育委員会からは、これまで生涯学習政策の今後のあり方について、様々な諮問を受け、答申を出してきた。今までの答申は、ホームページにも掲載されているため、後でご覧いただければと思うが、そういった答申を踏まえ、あり方見直し方針を策定し、実施しているところである。この会議には、様々な立場の方や市民の代表の方がいらっしゃるため、次期町田市教育プラン策定に向け、具体的な事業や実現する方法等について多方面からの意見を伺えればと思っている。よろしくお願ひしたい。

会 長：資料について、事務局より説明をお願いしたい。

資料説明の前に、事務局担当者の自己紹介が行われた。

#### <生涯学習部長より挨拶>

本日は、第1回町田市生涯学習審議会にご出席いただき、また、委員の皆様においては、ご多忙の折、生涯学習審議会委員をお引き受けいただき、教育委員会を代表して御礼を申し上げます。

第5期生涯学習審議会では、町田市の行政サービスのあり方や公共施設再編等の課題についてご審議いただき、文学館、図書館、自由民権資料館、生涯学習センターの各施設のあり方見直しに係る諮問に対し答申をいただいていた。いただいた答申を基に、それぞれあり方見直し方針を策定し、その取組みを現在着

実に進めているところである。また、並行して、教育振興に関する基本計画である「町田市教育プラン 2019-2023」に基づき、生涯学習施策に関する事業を進めているが、その町田市教育プランも来年度、2023年度をもって計画期間を満了するため、教育委員会では、新たに2024年度を初年度とする次期計画の策定に着手したところである。ウィズコロナにおいて、生涯学習を取りまく環境は急速に変化している。これらの環境の変化に即応できる生涯学習の推進、また、生涯学習施策の推進が必要であると考えている。

委員の皆様は、日頃から多方面でご活躍されている方々ばかりである。ぜひ多様な視点から議論をしていただき、次期町田市教育プラン策定に向けて、生涯学習の推進に係るご提案を賜りたい。ご多忙の中ではあるかと思うが、よろしくお願ひしたい。

資料2-1 生涯学習部の組織と附属機関について

資料2-2 町田市生涯学習審議会の概要について

事務局：生涯学習部には、生涯学習総務課、生涯学習センター、図書館の3課があり、施設として、自由民権資料館、図書館8館、町田市民文学館ことばらんどがある。所管する附属機関は、生涯学習審議会、文化財保護審議会、町田市生涯学習センター運営協議会、町田市立図書館協議会、町田市民文学館運営協議会の5つで、各附属機関の役割については、資料に記載のとおりである。生涯学習センター運営協議会、図書館協議会、文学館運営協議会については、それぞれの組織から生涯学習審議会に委員を選出していただいている。生涯学習審議会は、「町田市生涯学習審議会条例」に基づき、設置されている機関である。教育委員会の諮問に応じて、生涯学習の振興及び社会教育に関する基本方針の立案、施策及び事業について調査審議する役割を担っている。所掌事務、委員の構成や人数については、条例に定められている。今期の委員構成は、社会教育委員7名、生涯学習または社会教育の関係機関の代表5名、公募による市民2名の計14名である。なお、現在、生涯学習センター運営協議会からの推薦が未定であるため、13名の方に委嘱している。こちらは、推薦があり次第、委嘱する予定である。任期は通常2年間で、今期は2024年3月31日までとなっているが、それぞれの委員の皆さまの選出母体の方で、役職の交代や任期の終了が生じることもあるため、その場合は、都度委員の入れ替わりがある。今年度の会議は、3回の開催を予定している。事務局からの説明は以上である。

会 長：引き続き、資料3について事務局からご説明いただきたい。

#### 4. 町田市教育プランについて

- 資料3-1 教育プラン2019-2023（抜粋）
- 資料3-2 町田市生涯学習推進計画2019-2023（抜粋）
- 資料3-3 まちだ未来づくりビジョン2040（抜粋）
- 資料3-4 （仮称）次期教育プラン策定方針案
- 資料3-5 重点事業進捗確認一覧
- 資料3-6 教育プラン策定スケジュール案
- 資料3-7 市民意識調査案

事務局：まず、資料3-1 町田市教育プラン2019-2023についてだが、2023年度を持って計画期間が満了するため、現在、新たな計画の策定作業を進めている。この新たな計画の策定にあたり、プランの概要や策定作業の状況について情報共有し、今後検討する具体的な施策や事業等についてご意見をいただきたい。町田市教育プランは、2009年度に町田市の教育振興基本計画として策定した第1期から始まり、2014年度に第2期、そして2019年度に現行計画である町田市教育プラン2019-2023を策定した。計画の位置づけとしては、教育基本法に基づく地方公共団体における教育の振興のための施策に関する基本的な計画とし、町田市の基本計画「まちだ未来づくりプラン」のほか、教育に関連する他の計画と整合を図り策定したものである。町田市教育プラン2019-2023は、教育目標の「夢や志をもち、未来を切り拓く町田っ子を育てる。生涯にわたって自ら学び、互いに支え合うことができる地域社会を築く。」を掲げ、その実現に向けた4つの基本方針を定めている。「基本方針Ⅳ 生涯にわたる学習を支援する」が主に生涯学習に係る部分となり、基本方針を実現するための取り組みの視点として、「一人ひとりの学習段階に応じた支援」、「学習を支える環境づくりを進める」の2つがある。4つの基本方針に対して、14の施策、44の重点事業を設定しており、主に生涯学習に係る内容である基本方針Ⅳについては、4つの施策と13の重点事業がある。この44の重点事業については、それぞれ指標や工程表などを定めており、毎年度、成果を基に学識経験者などに助言をいただきながら、進捗状況等の点検と評価を行っている。次に、資料3-2「生涯学習推進計画2019-2023」だが、計画の位置づけとしては、町田市教育プランで定める生涯学習施策を具現化するためのアクションプランとして策定したもので、5つの施策とその実現のための39の取り組みを定めている。この取り組みについても、それぞれ指標と工程表を定め、毎年度、取り組みの実施状況を確認し、生

涯学習審議会や他の生涯学習部附属機関に報告をしている。2018年度までは生涯学習推進計画のほか、町田市文化財総合活用プランなど4つのアクションプランを策定していたが、2019年度からは、各計画の整合をさらに図り、連携を密にして取り組みを進めるため、生涯学習推進計画に集約した。続いて、資料3-3まちだ未来づくりビジョン2040は、町田市の基本構想・基本計画として2021年度に新たに策定したもので、基本構想部分は18年ぶり、基本計画部分は10年ぶりの改定となる。まちだ未来づくりビジョン2040の基本構想部分を担う「2040 になりたい未来」では、まちづくりの方向性、行政経営の方向性を明らかにし、未来の姿を「になりたいまちの姿」として掲げており、基本計画部分を担う「まちづくり基本目標」では、になりたいまちの姿を実現するための目標を政策・施策として体系的に示している。「になりたいまちの姿」の1つである「ここでの成長がカタチになるまち」では、子どもと共に成長していった先には、ここで暮らしてよかったと誰もが思えるような、それぞれにとっての幸せのカタチが生まれることを目指し、その姿を実現するための方向性として「子どもと共に成長し、幸せを感じることができる」と定め、「子どもにやさしいまちは、高齢者や障がい者など、みんなにやさしいまち」として、まちづくりを進めることとしている。また、基本計画部分を担う「まちづくり基本目標」について、それぞれ政策と施策ごとのになりたい姿や現状と課題、指標などを示している。主に、生涯学習に係る施策としては『生涯にわたる学習の「しやすい」を支援する』とし、になりたい姿、実現度を図る指標、現状と課題、そして、になりたいまちの実現に向けた施策推進の方向性、関連する計画を記載している。また、このまちだ未来づくりビジョン2040の実行計画として同じく2021年度に策定した5ヵ年計画22-26において、この『生涯にわたる学習の「しやすい」を支援する』ための事業として、図書館による電子書籍サービスの導入や、生涯学習センターによるデジタルデバインド解消のためのデジタル初心者向けの講座等の事業を実施することとしている。今、説明した計画のうち、町田市教育プラン2019-2023と生涯学習推進計画については、2023年度に計画期間を満了するため、今年度において次期計画の策定を進めているところある。資料3-4（仮称）町田市教育プラン2024-2028策定方針（案）は、次期プランの策定にあたり、その方向性を示す「策定方針」の案を作成したものである。委員の皆様には、この策定方針を基に、今後行う次期計画の施策や事業等について、ご意見などをいただきたいと考えている。また、学校教育に関する部分については、学校教育

部で調整を行っており、最終的には統合した内容にて定める予定である。教育環境を取り巻く状況について、(1) 国、都の動向としては、国の動きとして、第3期の教育振興基本計画が2022年度に満了するため、現在、次期計画を策定中であり、今後、基本方針等が段階的に示されていくところである。国の次期計画では、持続可能な社会の創り手となる子どもたちが中心となって活躍する、2040年以降を見据えた取り組みの他、予測困難な社会における増大する人材移動を支えるため、社会人の学び直し「リカレント教育」の推進することなどが求められている。これらの取り組みにおいては、学習者の視点に立ち、自分らしく学ぶことができ、誰一人取り残されず、一人一人の可能性が最大限に引き出され、一人一人の多様な幸せであるとともに社会全体の幸せでもあるウェルビーイングが実現されるように進めていくことが求められている。ウェルビーイングとは、心身と社会的な健康を意味する概念で、一次的ではなく持続的な幸福を表すものである。また、東京都においても、第4次東京都教育ビジョンが2023年度で満了するため、次期ビジョンの策定に向けた都の動向も注視していく必要がある。続いて(2)本市の状況は、全国的な人口減少・少子高齢化のなか、町田市についても2021年から2025年の間に人口がピークに達し、その後に減少することが見込まれている。このような見通しの中、町田市では2021年度に新たな基本構想・基本計画である「まちだ未来づくりビジョン2040」と、その実行計画である「町田市5ヵ年計画22-26」を策定した。まちだ未来づくりビジョン2040については、「子どもにやさしいまちはだれにとってもやさしいまち」の考えのもと、2040年に向けて子どもの視点でまちづくりを行うことを第一に掲げており、実行計画である町田市5ヵ年計画で、全世代での自己実現の創出を掲げるなど、選ばれるまちづくりに取り組み、生涯に渡る学習の「しやすい」を支援するため、学びに会う機会や、学習成果を活かす機会の充実を促進していくこととしている。また、生涯学習施策に関しては、2019年度のから各生涯学習施設のあり方見直し方針を定め、事業と管理運営の改善に取り組んでいる。2. 現行計画については、計画の進捗状況について資料3-5をご覧ください。これは、生涯学習関連部分に係る各事業の2021年度の進捗状況をまとめたものである。各重点事業について、それぞれ指標と目標値を設定しており、毎年度、現状値と目標達成状況の確認などを行っている。資料3-4に戻らせていただき、3 次期計画策定の考え方についてだが、まず、(1) 課題として、これまでの教育環境を取り巻く現状、教育委員会の取り組み

等から、①～④の4つの視点で課題をあげている。次に(2)生涯学習推進計画の教育プランへの統合については、社会や教育環境が大きく変化するなか、今後はこれまで以上に地域及び学校と連携して学習の「しやすい」環境づくりを進めることが必要となる。このため、次期教育プランでは、生涯学習と学校教育の施策を同じ方針に織り込み、学校という拠点を通じて市民が学び続ける環境づくりを推進することとし、生涯学習推進計画を教育プランに統合することとした。(3)方向性は、町田市の基本構想・基本計画である「まちだ未来づくりビジョン2040」のなりたい姿の一つである「ここでの成長がカタチになるまち」を目指し、実現するためのまちづくりの方向性である「子どもと共に成長し、幸せを感じることができる」という考え方にに基づき、市長部局の関係部門や他機関と連携しながら、町田市ならではの魅力的な教育施策及び事業を構築することとしている。4 次期計画の概要について、(3)計画の構成だが、教育分野における町田市が目指すべき姿を現す「教育目標」と、教育目標を実現するための政策の指針である「基本方針」を示すものとしている。基本方針は、これまでの課題等を踏まえ、4つの方針を掲げ、具体的な取り組み内容を施策と重点事業の階層で体系的に整理する。次に(5)検討体制について、まず「①庁内組織」として、教育長を委員長とする「町田市教育プラン策定検討委員会」を設置し、教育目標、基本方針、施策、重点事業の立案などを行い、検討委員会の下部組織として、作業部会を設置し、施策や事業の検討を行い、検討委員会へ報告する仕組みとなっている。作業部会は、4つの基本方針に基づき4部会で構成され、それぞれのテーマに沿って議題を設定し協議することとし、メンバーには、有識者や保護者組織から代表をアドバイザーとして選出するほか、市民参加として、アンケート調査やパブリックコメントを実施する。(6)策定スケジュールについては、資料3-6をご覧ください。まず大きな予定として、2023年3月に計画の骨子を確定し、翌年2024年3月に次期プランの策定をする予定である。今年度の審議会については、第1回目の本日は、今後進める次期教育プランの策定作業等について、2回目は10月に策定に係る中間報告や施策・事業等についてご意見をいただき、来年1月の第3回で計画骨子について報告し、同じくご意見をいただきたいと思います。最後に、資料3-7だが、次期計画策定にあたり、前回からの経年を確認するために行う市民アンケートの案である。このアンケートは、図書館事業に係るアンケートと併せて行うもので、無作為抽出した3,000人を行うことを予定している。資料中の内容は生涯学習に関するも

のみとなっているが、今後、図書館事業の内容と調整し、今年9月に調査を行う予定である。資料の説明は以上となるが、この策定方針に基づき、今後、作業部会等を通じて具体的な施策や事業を検討していく。作業部会では、先ほど説明した課題を踏まえ検討等を行うこととなるが、本日はこの課題やその他全般について、委員の皆様からご意見をいただきたい。事務局からの説明は以上である。

会 長：多くの資料があるため、すぐに全て理解できないかもしれないが、本日は、第1回ということもあり、主にそれぞれの立場を踏まえ、取組んでいることや学びについて考えていること、事務局の説明についての質問や意見をいただきたい。会議の中では、組織代表としてというわけではなく、個人の意見として出していただいても結構である。今の事務局の説明など背景としてあるものを念頭に置いていただければと思う。1人1回以上ご発言いただきたい。どなたか、ご意見はあるか。

M委員：まだ資料を熟読はしていないが、市民として身近に感じた。ただ、施策について、理念が先行して誰を対象としてどのような必要性から実施するのか見えてこない。市の予算を使用して実施するものであるため、市民の要望を基に優先順位をつけ、それが施策の中に現れているのが分かる資料になると良いのではないか。

事務局：現在、策定方針の段階であるため、これから行う市民アンケートで、市民の方がどんなことを求めているのか等をお聞きする。M委員のようなご意見は、これから策定していくにあたり参考になるため、多くのご意見をいただけたらと思う。

I委員：コロナ禍で、オンラインとリアルを併用したかたちがスタンダードなものとして世の中に認識された。今後、コロナ禍が解消されたとしてもオンラインとリアルの併用は、これから先なくなることはないだろう。そう考えると、生涯学習の中でも、メディアを使い分けていく必要があるのではないか。例えば、文学館では、20代の若者たちをどのように文学館の企画運営の中に取り込んでいくか様々なことを考え、ことばらんどショートショートコンクールというものを実施したが、非常に関心をひくことができた。SNSやメディアが普及し、短い言葉で自分の思いを表現し伝えていくといったことを繰り返している若い方々にとって、ショートショートはやはり非常に関心があったと思う。また、違う観点から、20代や30代だけではなく、50代でも活動範囲は広い。例えば、町田市在住でも、仕事等で市外に出た後から講座受講のためにまた帰ってくるとなると、多忙な中で機会を持つことが難しく、1つのリスクとなってしまう可能性がある。そういった活動範囲が広い

方をターゲットとする企画のときは、オンラインが有効である。一方で、仕事をリタイアした方や高齢者、子ども等は、仲間や友人といった人間関係を育んでいくことも必要であるため、リアルで行う講座にすると非常に意味があると思う。内容やターゲットによってメディアを使い分けるといった視点は、今後あっても良いのではないか。

会 長：私も、学生とICT関係の話をした際、ICT教育は、子供のほうがどんどん学んでいくため、必要なのはむしろ高齢者じゃないか、という面白いこと言っていた。その通りだと思う。

I 委員：資料3-5の、「IV-1 学びのきっかけとなる機会を提供する」の「4 学校図書館との連携強化」について、コロナ禍の中、予定が遅れてはいるが、健闘していると思う。その中で、学校図書館の支援というものがあるが、どういうものか具体的にご説明いただきたい。

事務局：学校図書館の支援として、学校の授業等で使用したい資料があれば、図書館から本の貸出を行っている。また、特定の本の貸出だけではなく、テーマを言ってもらって、そのテーマに合った本を貸出するといったことも行っている。目標達成まで遅れている理由としては、学校のニーズをもう少し汲み取る必要があると思っている。図書館として、本の貸出というよりも、本を読むということも追求したい。

会 長：学校図書館との連携については、学校側ももっと本を読むような授業を設けたりするといった仕掛けを作らないと中々貸出も増えていかない。おそらくこれは、児童・生徒だけではなく、学校側の体制づくりの問題も若干あるのではないか。

J 委員：私からは、2点コメントをさせていただきたい。1つ目は、非常に実務的な話になるが、我々が事務局をしている「まちカフェ」というものがあり、この間、その参加団体や実行委員会のメンバーの方と話す機会があった。まちカフェで活動している方々は「もっと活動する方が増えてほしい」という思いがあるが、すでに活動している団体が集まる場にこれから活動しようとしている方が参加するというのは中々ハードルが高い。生涯学習とのつながりがあれば、生涯学習を通じて次の活動に行くステップになるのではないかと、という意見が1人の実行委員の方からあった。コロナ禍で休止していた各課の様々なイベントや事業も多かったが、これから再開してくるかと思う。そういったとき、やはり縦割で行うのではなく、例えば、生涯学習センターまつりとまちカフェでつながるといった横の連携をしていく必要があるのではないかと。今の時代、課題も縦割だけでは解決できないことも多いため、そういったことが具体的にできれば良い。もう1点、中々実現は難しいかもしれない

が、3月末に「公民館のしあさって」という読書会というものを開催した。その中に社会教育を専門としている東京大学の牧野先生のインタビューが掲載されている。そこで、特に社会教育や生涯学習の分野というのは、今の変化の大きい時代において非常に重要であるという指摘とともに、PDCAサイクルのような体系にそぐわない部分が非常に多いのではないかとということが記載されていた。教育プランのようなソフト面によるものが多い分野については、主に指標管理となるが、例えば、参加人数や実行回数等の指標だけだと、時代にそぐわないのではないか。そのため、次期教育プラン策定の際は、もう少し新しい時代に合ったかたちでの新しい体系を作るということを検討に入れていただけると良い。

会 長：新しい時代の新しい指標、又は、今までと違う考え方があると良い。PDCAサイクルは、それなりに意味や価値はあるのかもしれないが、教育に当てはめられるかという疑問もある。長いスパンで、指標そのものを考え直すことも、必要となるのではないか。

C委員：私は、学校支援ボランティアコーディネーターで、学校と密に関わっている立場だが、日頃から思うことは、学校教育の中に中々社会教育や生涯学習が入ってこない。ここが紐づいて、うまく学校教育につながってもらえると良いと思っている。現在、学校の統廃合の話が出ている。私が所属している第8地区はまだ少し先になるということで少し安堵しているが、町田市に親しみを持っている地域の方々は不安に感じており、そういう中でボランティアコーディネーターとしてどのように動いていけばいいか、模索している状況でいる。この資料を見ると、子供を含む全ての人々が幸せになれるかたちのものを作り上げようとしているようで、素晴らしいことだと思う。子どもは宝であるため、そこを幸せにしてあげるといえるのは大切ではないか。1つ質問だが、資料3-5の本と出会う場所の創出に読書マップの作成という記載がある。私も、町田第二中学校で図書指導員をやっているため気になったのだが、2021年3月に読書マップを作成したとあるが、これはどこかに配布されたのか。もしくは、どこかに設置されているものなのか。読書マップを認識していなかったため、そのあたりを伺いたい。

会 長：今の学校教育と社会教育の関係について、事務局はどうか。

事務局：先に読書マップについて、回答したい。読書マップは、図書館だけではなく、大学等の教育機関や本が置いてある民間企業といったところの許可をいただき、地図にして紹介したものである。2021年3月に作成し配布したが好評で、現在在庫はないが、図書館のホームページにも

掲載されているため、ぜひご覧いただきたい。作成時点は、2021年3月だが、その後、更新している箇所がある。ホームページもそのたび更新しているが、ある程度変更があったら、また印刷し、配布する予定である。

事務局：今まで学校教育と生涯学習は分けて考えてきた。現在の教育プランは、4つの基本方針のうち4番目だけが生涯学習に関するものだったが、次期教育プランはそういった作り方ではなく、学校教育と生涯学習も織り交ぜて4つの基本方針の中で展開していくという方向性である。我々も、学校教育については把握しづらいところがあるため、ぜひ、生涯学習審議会や教育委員の方から教えていただきたいと考えている。また、先ほど、J委員がおっしゃっていたPDCAサイクルの件は、こちらでも話題に出ており、5年間の計画であるため変わっていく時代に即していないという事態も発生している。評価方法の検討や即効性の高い計画を作成していくことで進めている。

会長：町田市は、学校支援ボランティアコーディネーターという組織があり、東京都でも評価されている。東京都では、地域コーディネーターというものをつくり、現在、地域学校協働活動を推進している。私も、東京都地域学校協働活動推進委員となっており活動しているところであるが、先ほどの話にあったように学校教育と社会教育が一体化するような仕組みを作る方向で動いているため、今後、ますます進んでいくだろうと思う。例えば、社会に開かれた教育過程では、市民の方々が担い手となって講師となる等の方向性が様々なところから出ている。今日は、学校教育の関係者が欠席であるため、私が話しているが、そのようなことを学校教育もやり始めており、今後学校教育と社会教育がつながっていくかと思う。また、町田第一中学校では、コミュニティーセンターのような地域の核となるような学校づくりをされており、これも全体的な方向性からすると、今後増えていくのではないか。点検評価については、評価指標や方向性も何年間も経つうちに次々と新しいものが出てくる可能性があるため、更新していかなければいけないと感じている。

D委員：中P連は、子どもたちの幸せを願い、将来的に、子どもたちが町田に住み続けてほしいという気持ちを持って活動している。昨年度から学校がコミュニティースクールに移行し、今までも地域の方々とつながりは多かったが、さらにもっと学校の中に入っていただき、地域に根差した学校づくりというものを先生たちも目指して運営されているのではないかと感じている。そのような中で、子どもたちの未来を考えたとき、学校の中に保護者以外の大人が入ることで、お互いに学び合いながら、

様々な未来のことを考えていく時間はとても必要だと思っている。次期教育プランは、学校教育と生涯学習の統合という話があったが、こういったことを目指していくにはとても良い内容である。子どもの幸せを考えつつ、プランが実行されていって欲しい。

会 長：地域の方とどのように協働していくか、PTAも考えていく必要がある。PTAの中で完結ということではなく、地域の活動として、PTA活動をどう位置付けていくか等あるかと思う。

B委員：町田に生まれ、町田で育ってきたが、資料の3-7の市民意識調査のアンケートにある「あなたは市内にある文化財を知っていますか？」という質問を見て、記載されている7つのうち4つしか知らず、町田市にはまだ知らないことが多くあるのだと思った。シルバー人材センター職員という立場から見ると、生涯学習センターや図書館を利用している方は高齢者の割合が非常に多く、生涯学習というと、高齢者になっても学んでいくといったイメージがある。例えば、高齢者こそインターネットを通じた学びが必要で、計画の中にもインターネットを通じた学びがあり、このような介護予防になるような学びの場が必要なのではないかと思っている。先日のブラタモリで町田市と神奈川県について放送されていたが、テレビ視聴も勉強になると感じている。例えば、若い世代に文化財を周知しようとしたとき、やはり見る機会が少ないのではないかと思う。自分から見に行かないと情報を得られないものは、興味のあることにしか目を向けない。日頃から目に入りやすい環境があると少しずつ周知できていくのではないか。

会 長：それでは、オンラインでご参加の委員に伺いたい。会場の話をお聞きになり、あるいは、資料をご覧になってご意見等あるか。

H委員：3つ感想がある。1つ目は、この先、生涯学習推進計画と統合して教育プランを策定していくところだが、その際に市民参加をもっと積極的に組み込まれたらいいと思う。市民意識調査とパブリックコメントだけが記載されているが、作成過程に積極的に市民が関わることが大切で、実際に様々な施設の委員会や、生涯学習審議会といった場に、公募の方々が来てくださるとありがたい。パブリックコメントがきちんと反映されるような仕組みにして欲しい。2つ目は、評価のことである。資料3には様々な評価があり、コロナ禍もあって、行政主導の実施で進むものは、予定通りになっているものもあるが、利用者やほかの連携先からの求めがないと、実現されるのが難しく達成できないものもある。学校との連携が遅れているように見えるかもしれないが、市民の反応や連携先の反応に応じた目標達成度が記載されるように対応したほう

が良いのではないか。それにより、無駄だったとなるのではなく、もっとそこに資源が割かれるような評価が行われる方がいいと思っている。3つ目は、他の委員からICTやその使い分けの話があった。町田デジタルミュージアムが公開されたことをうれしく思っている。これを機に、コンテンツの拡充というものを積極的に考えていただきたい。単に市立博物館が持っていたもの、歴史的な資料、民俗的な資料だけではなくて、行政の情報発信、行政の刊行物、図書館の持っている郷土資料等を組み込み、地域のことを学んだり、知るための情報システムとして展開されたらいいと思う。

会 長：続いてA委員、お願いしたい。

A委員：現行のプランを拝見して、全体的な方向性として、学ぶだけではなく、成果を発表する機会、活かす機会それらを合わせて取り組んでいる点については、非常に素晴らしいと思った。2つ目に、生涯学習というテーマで様々な意見が出ているが、本当に広いテーマであると同時に、例えば福祉等の他の分野にも密接に関係のあるテーマだと改めて感じた。その中でも生涯学習と社会課題を関連付けようとしている取組みも素晴らしい方向性で、この部分をより強化していくことによって、学習にもなり、ウェルビーイングという言葉もあったが、市民の生活自体も向上し良いサイクルが生まれていくきっかけになるのではないか。それに関連して、情報共有をしたい。私は、大学の社会企業研究科というところにいるが、その中の1つの分野として、より良い暮らしをその地域でしていくという街づくりの分野があり、私が注目している「エブリワン エブリディ」というロンドンの東部で行われているプロジェクトがある。これは、比較的労働者や移民が多く、人口の流動性が高い等の様々な社会課題を抱えている一地域で社会実験を行うもので、様々な個別の助成事業を取り入れてきたが、それだけだと本当の変化は起こらないという結果に至り、仮説として、一番大切なのは地域のソーシャルキャピタルを高めていくことではないかという議論が出ている。他の委員から子ども達をもっと地域の大人と関わり合いを増やしていければいい等の話が出ているが、全く同じ方向性だと思っている。様々な年代や立場の市民が学習という活動を通じ、お互いに知り合っていくことが、子ども達だけでなくシニアにとっても、重要なテーマの一つになっていくのではないか。もう1点、ターゲット、優先順位という話があるが、限りあるリソースだと思うので、優先順位をある程度立てて、効果が高く今の社会に必要とされているものから取り組んでいく必要があると感じた。先程から出ているようにデジタルリテラシーであっ

たり、人生100年時代となると、身体面、メンタル面での健康に関連したセルフマネジメントや金融リテラシーという点も重要である。さらに図書等に関連すれば、文字中心から、画像、映像中心にシフトする可能性があるため、今後検討していく必要があるのかもしれないとも感じた。また、評価に関しては、私も難しいところだと思っている。様々なところで言われているが、アウトプットの違いではないか。何をやったかということだけではなく、実際に望む変化が起きたかどうか、そういった測定も含めていくことも検討していけたら良い。

会 長：他にご意見のある方いるか。

I 委員：H委員から町田デジタルミュージアムのコンテンツの話があったが、以前文学館で、町田の文学者の副読本を作り学校に配布したことがあったかと思う。以前、町田の近代史や歴史に関する副読本を作成し配布したという話を伺ったことがあるが、そのような副読本等をコンテンツにアップすればさらに充実していくのではないか。オンライン上で、知識を増やすことができれば、学びの機会としては非常に有益である。

会 長：I委員がおっしゃっていたようなことだと、例えば、狛江市が学校に提供するために市民と一緒に動画のコンテンツを作成した。公募したところ希望者が多く集まり、現在5本ほど動画を作成し、学校に提供している。今後、映像、画像、動画等のデジタルコンテンツへの取組みが必要になってくると思うが、教育委員会でも、プロではなく市民が動画等を作成するための予算措置を始めている。また、A委員がおっしゃるように、社会的課題は結構大きな問題で、行政もやりたいことややって欲しいことがあるかと思う。私は、全く違う角度から、個人の趣味や特技等を上手く積み上げるような方式があると良いと思っている。ゴールデンカムイという漫画があり、日本とロシアの関係や、アイヌの人たちのことが描かれている。何の役に立たない趣味の世界かもしれないが、こういったことを一緒に語り合える場や機会があれば、もっと充実するのではないか。例えば、ひなた村で行っている釜を使ったピザ作り体験は面白い。社会ニーズだけでなく個人の趣味ややりたいことがやれるような社会教育、生涯学習を行っていけたらと思う。

## 5. その他

資料4 生涯学習部の報告事項について、生涯学習総務課長より説明。

事務局：次回は、10月以降に開催を予定している。それまでの間に、教育プランの進捗について提供できるものは、随時、情報提供していく。事務局からは、以上である。

会長：今回は、会議が3回であるため、もう少し情報交流・情報提供できると良いと思っている。希望しない方は入る必要はないが、グループメールを作成する等事務局で検討していただけたらと思う。これで第1回生涯学習審議会を終了する。